

令和4年度 第2回学校評議員会議及び 学校関係者評価委員会

日 時：令和5年3月21日（火）14：30～16：30

場 所：会議室

出席者：石場正樹委員・岩月宏泰委員・成田克彦委員・櫻庭武志委員・中村博幸委員・藤公晴委員
和久校長・白戸教頭・高坂教頭・船橋事務長・中畑教務部主任・佐藤生徒部主任・落合進路部副主任
任・安江渉外部主任・安田図書部主任・宮本保健部主任・三上貴1年次副主任・村上2年次主任・
木村3年次主任・清野教務部副主任

欠席者：なし

司 会：白戸教頭

記録者：清野達雄

配付資料

- ・令和4年度 第2回学校評議員会議 各分掌報告(資料1)
- ・令和4年度 学校関係者評価委員会(資料2)
- ・各通信・保健だより・新聞切り抜き(資料3)

内容

1 校長挨拶

今年度も感染予防を行いながら学校行事を行ってきた。行事は修学旅行をはじめ、すべての行事を行うことができた。本校の卒業式は、送辞や答辞がなく、卒業賛歌という歌によって生徒を送り出すという形をとっているため、マスクの着用や参加人数については制限をかけて行う。

部活動については、インターハイなど全国大会への出場はなかったものの、カーリングや放送でよい成績を収めることができた。

本日は、学校評議員会議及び学校関係者評価委員会の2つを行う。いただいた意見をもとに、来年度に向けて取り組んでいく。

2 第2回学校評議員会議

- ・別紙資料により、各分掌主任からそれぞれ説明があった。

質疑応答

(岩月委員) ①父母教師会の総会ではどのような意見があったか。

②教務部の説明の中に新課程での評価についての説明があった。不安はあるのか。

(安江渉外主任) ①予算についての提案があった。通常会費の節約により生じた残額をどうするかについて積立金にしてはどうかなどのアドバイスがあった。

②PTAの総会では特に意見はなかった。

(和久校長) ②評価に関して多少の不安はあった。しかし、生徒は中学生のときに実施され、慣れている。

(石場委員) 修学旅行ができてよかった。

(和久校長) 村上2年次主任や高坂教頭が細かく保険など調べて実施することができた。

(村上2年次主任) 生徒自身にどんなリスクがあるかポスターにして発表させるなど事前学習を行った。

(藤委員) 評価に関してどう変わったか。

(中畑教務主任) 2, 3年次は5段階評定のみで、新課程の1年次は3つの観点別評価をのせるように変わった。

3 学校関係者評価委員会

- ・中畑教務主任から、授業評価アンケート、保護者アンケート、授業評価アンケートについて報告
- ・各分掌・年次主任から、自己評価についてそれぞれ報告

質疑応答

(岩月委員) ①感染症に罹患した生徒に対してどのように授業を保障したか。

②オンデマンド教材を活用しているか。

(中畑教務主任) ①1年次が授業の様子をオンラインで配信した。

②難しいところがあり、現在は行っていない。

(藤委員) ①評価アンケートの質問構成や設問は変わったのか。評価の方法が変わったのであれば聞き方も変えるべきだが。

②クラッシーやクラスルームなどの使用について、どう棲み分け、連携をしているか。

③探究活動について、計画や戦略、必要経費はあるのか。

(中畑教務主任) ①古いものと新しいものが混じっている状況である。

②互換性はあるのかもしれないが、現状ではよいところを使い分けている状況である。

(落合進路副主任) ③「あおもり創造学」という名称で探究活動を行い、進路部で担当している。今年度は年度途中からの実施であった。次年度はきちんと計画をたてて実施する。

(和久校長) ③「あおもり創造学」は県の事業であり、地域を活用した活動を多く取り入れたい。県からも補助はあるが、PTAでも予算を捻出するなどして活動していきたい。今年度、総合型・学校推薦型の入試結果がよかったことは、探究活動に対してフットワークよく取り組めたことが影響していると考える。

(中村委員) 課題というのが3年生にはこの後はない。先送りになっているように感じるが。

(白戸教頭) 課題の意味として、今年度を踏まえた次の年次へのアドバイスと捉えてもらえれば。

(成田委員) 図書支援員はどのように配置しているか。よい状況であればどんどん取り入れることで先生方の働き方改革につながるのではないかと。

(安田図書主任) 青森商業と本校のかけもちで来てもらっている。

(和久校長) スクールサポートスタッフとあわせて2名、働き方改革の一環である。

(船橋事務長) 非常勤のスタッフで求人票をだして選考した。県の予算で動いている。

(石場委員) ①文理分けは2年次からか。その内訳は。

②質問でなく報告。東朋会の総会を今年度は実施したい。本来は34回生が担当だが、できなかった31, 32, 33回生を担当として実施してはどうかと考えている。

(木村3年次主任) 2年次から分けている。文型2クラス、理型2クラスである。1年次は文、理ともに3クラスとなっている。

(藤委員) ①タブレットの活用を踏まえて、デジタル化されているものをどう活用しているか。情報を引き出すことは大学でも必要なことなので、教えるならば早いほうがよい。

②グループエンカウンタ、学校グループワークトレーニング (GWT) は大事である。

(安田図書主任) ①学校図書システムは古いもので、検索や蔵書点検に教員のパソコンを使っている状況であり、図書部において ICT の利用はまだまだである。年次においては、総合的な探究の時間でタブレットにあるプレゼンソフトを使って発表をしている。

(宮本保健部主任) ②グループエンカウンタはホームルーム活動で実施している。春は体育館で一斉に集団として行っている。QU を活用して、不安要素のある生徒と面談をしている。GWT は10月下旬に行い、さらに QU で確認している。時間があくことが課題で、回数を増やすことを目標としている。

(石場委員) 先生方も忙しい中、生徒のために動いてくれている。保護者アンケートでもよい評価があるので、来年度の改善策をたて頑張ってもらいたい。

(櫻庭委員) ①配慮型の生徒が多いということだが。

②秋田大学では文理の枠を超えた学部が新設された。枠にとらわれず ICT を含めたグローバル人材の育成が求められている。

(宮本保健部主任) 本校生徒は、「我が、我が」というより一歩引いて行動する生徒が多いと感じている。

(中村委員) 災害拠点校になっているが、休日に避難したいときはどうすればよいのか。何かあったときにすぐ開けられるように複数の人に鍵を預けてはどうか。

(和久校長) 震度5弱以上で管理職は学校に来ることになっている。市からの情報をもとに避難所を開設するが、保健部でも避難所開設を含めた避難訓練をする話が出ている。鍵の話は代行員が近くに住んでいるのでお願いすることになると思うが、整理していく。

(藤委員) 今後の課題は評価の設問か。コンピテンシーや学習効果をどう可視化していくかが課題で、それが綱領にもつながっていく。入学してから卒業するまでどう育てていくのかを授業や行事にどう落とし込んでいくのかが大事になってくる。

(宮本保健部主任) グランドデザインという形で去年、今年と取り組んでおり、目に見えるものになりつつある。それを評価につなげていくことが目標になる。

4 校長お礼の言葉

コロナ対策であったり、支援を必要とする生徒への対応であったり、やることの多い1年だった。その中で、先生方が課題に向かって取り組んでくれた。学校はたくさんの目で見ていただいて評価してもらうことが大切であり、本会議ではたくさんの意見をいただいて感謝している。

委員からの御意見・感想に対して、校長より感謝の言葉があり、第2回学校評議員会議及び学校関係者評価委員会を終了した。

以上